

## (5) 東海



東海地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

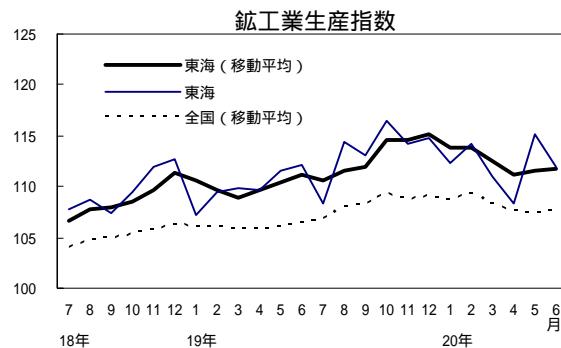
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成20年5月)	今回(平成20年8月)	
景況判断	回復	回復の動きに足踏み	
鉱工業生産	堅調に推移	おおむね横ばい	
個人消費	一部に回復の動きが残っているもの のおおむね横ばい	おおむね横ばい	
雇用	着実に改善	改善の動きに足踏み	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

輸送機械は、海外向けの堅調な乗用車がおおむね横ばいで推移しているものの、自動車部品が高水準ながら国内向けで伸び悩み、減少している。一般機械は、金属工作機械が欧州、アジア向けは堅調なものの、国内向けが伸び悩み、おおむね横ばいとなっている。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路の携帯電話向け記憶素子(メモリ等)が高水準で、おおむね横ばいとなっている。プラスチック製品は、プラスチック製フィルムや工業用製品を中心に減少している。化学は、医薬品が増産したことから、増加している。



付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)			
	月期	生産		在庫
		1~3月	4~6月	
輸送機械	37.5	3.4	1.1	1.4
一般機械	12.7	1.4	0.8	2.9
電子部品デバイス	6.8	3.5	0.2	2.0
プラスチック製品	5.4	0.4	2.5	1.3
化学	5.0	5.2	3.6	0.5
鉱工業	100.0	2.3	0.6	0.9

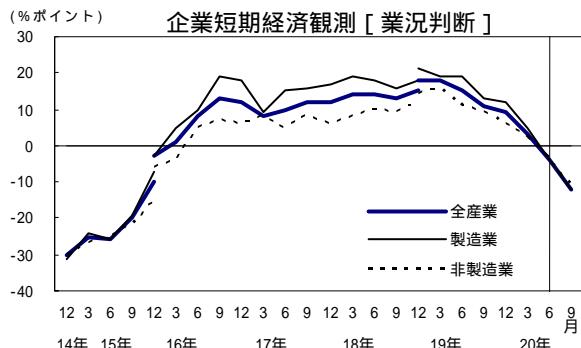
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

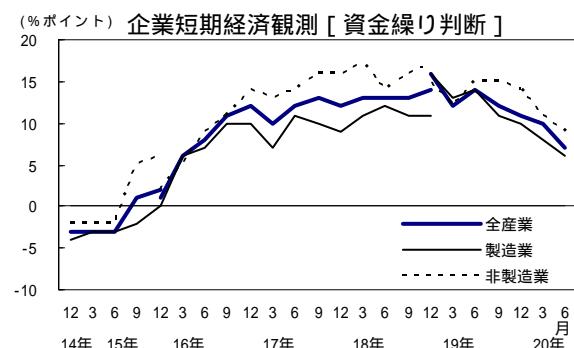
(備考) 1. 17年 = 100、季節調整値。

2. 全国及び東海の大線は後方3か月移動平均。

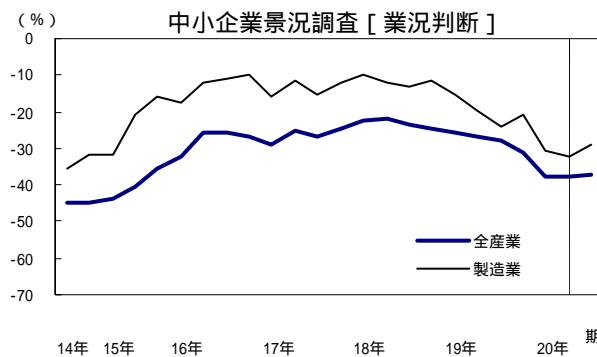
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



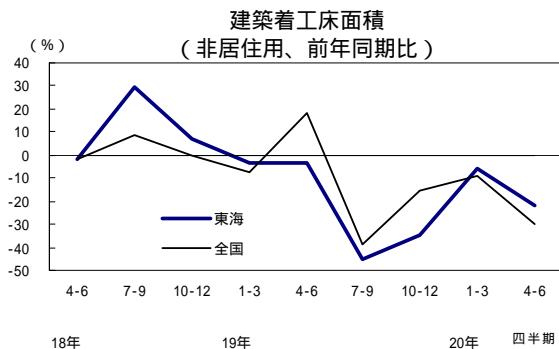
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年期は見通し。  
中部地区。

**景気ウォッチャー調査 (7月) [企業動向関連 (現状)]**  
「取引先では、アメリカでの大型車の販売不振などにより、9月頃まで生産調整を実施する。その影響で、梱包資材の販売量が減少している（紙加工品 [段ボール] 製造業）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (6月調査) ]		
(前年度比、%)		
	19年度実績	20年度計画
全産業	6.4 [ 8.2 ]	3.3 [ 0.1 ]
製造業	0.4 [ 1.6 ]	2.0 [ 1.2 ]
非製造業	18.2 [ 21.2 ]	5.5 [ 1.7 ]

(備考)[ ]は前回(3月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

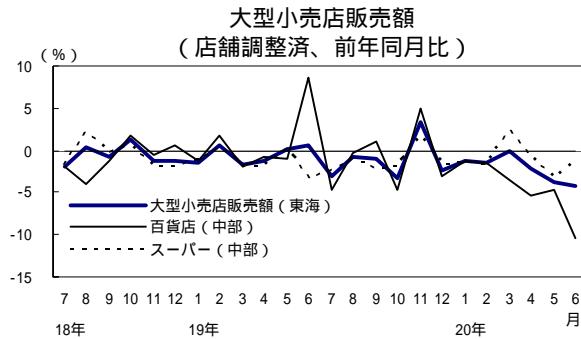
#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、前年の大型商業施設開業のプラス効果の反動に加え、株安やユーロ高の影響から高級品の売上が悪く、前年を下回った。5月は、相次ぐ食品等の値上げによる生活防衛意識の高まり、天候不順からファッショニ性の高い衣料品が不調で、前年を下回った。

6月は、前年6月末だったクリアランスセール初日が今年は7月になったことに加え、中元商戦のピークと見込んだ6月最後の週末の大雪も客足に影響し、前年を下回った。なお、中部百貨店協会によると、名古屋市内の7月の売上高は、前年同月比で5.3%減となっている。スーパーは、飲食料品は堅調に推移したものの、衣料品が不調で、全体では前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「観光客数は前年並みであるが、ガソリン価格の高騰の影響で、公共交通機関利用者が若干増加している一方、自動車利用者は10%ほど減少している。その影響もあり、客単価は5%ほど低下している(一般小売店[土産])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



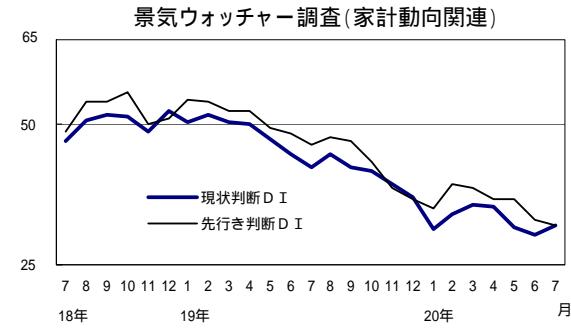
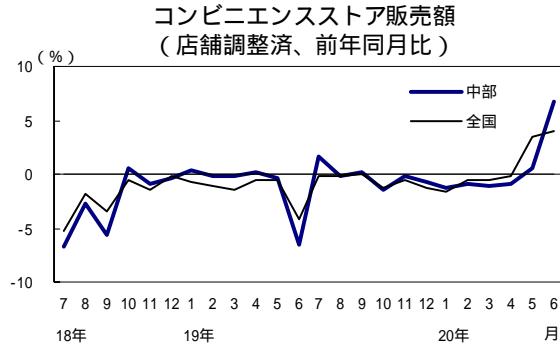
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	1.6	0.8	0.9	3.4
百貨店	1.8	1.2	2.1	6.9
スーパー	1.9	0.7	0.3	1.8
コンビニ	0.6	0.8	1.0	2.2
景気ウォッチャー	43.2	39.3	33.8	32.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの

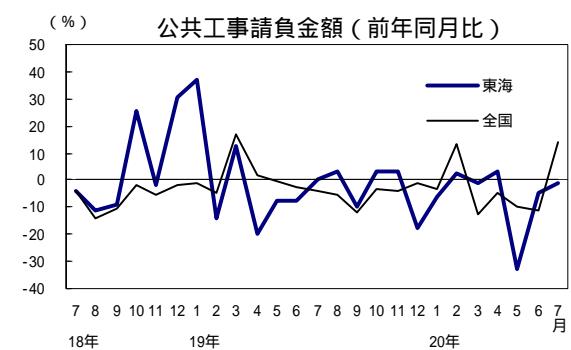
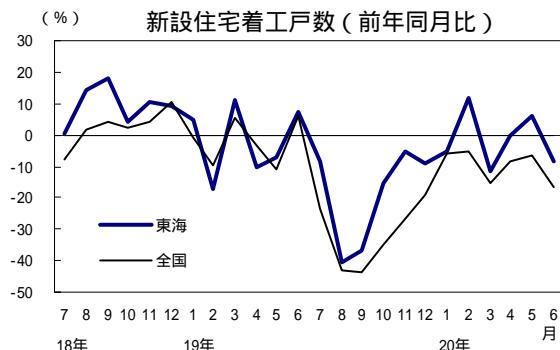
3か月平均。



### (2) 住宅建設は減少幅は縮小している。

持家、貸家は前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、減少幅は縮小している。

### (3) 公共投資は20年度累計でみると前年度を下回っている。

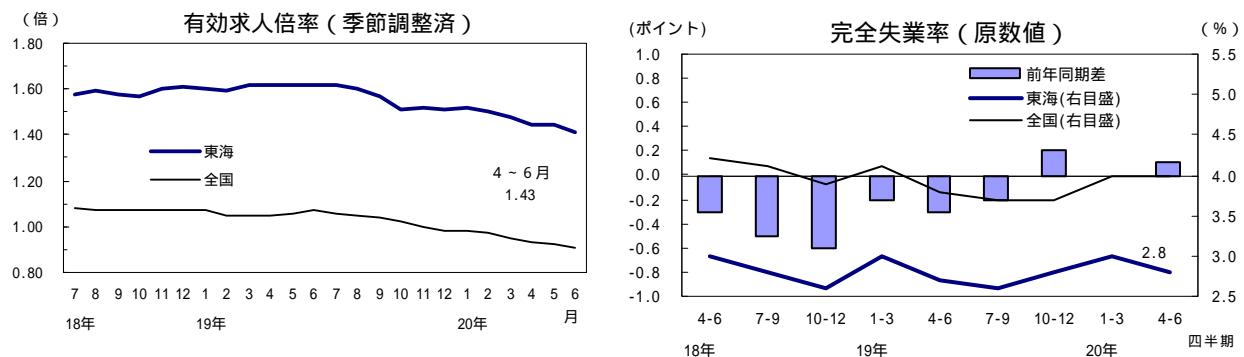


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

「新規求人件数は、前年同月比で24.8%減少している。製造業全体では32.7%の減少であるが、特に輸送用機器製造業では70.7%と大幅に減少している(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

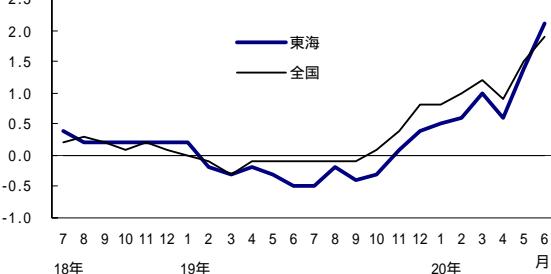
(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	349	332	343	332	120
(前年比)	21.2	2.8	7.5	8.1	0.8
負債総額	1,993	750	1,012	1,359	217
(前年比)	94.7	20.1	14.2	80.0	35.4

#### 消費者物価指数

(生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- ・東海北陸自動車道の全面開通効果によって、交流人口が増加している。ガソリン価格の高騰にもかかわらず、良くなっている(テーマパーク)。

##### <先行き>

- ・セール品しか売れず、正価品の売行きは非常に悪いため、来年1月のクリアランスセールまでは非常に厳しい(百貨店)。

#### 景気ウォッチャー調査(合計)

